

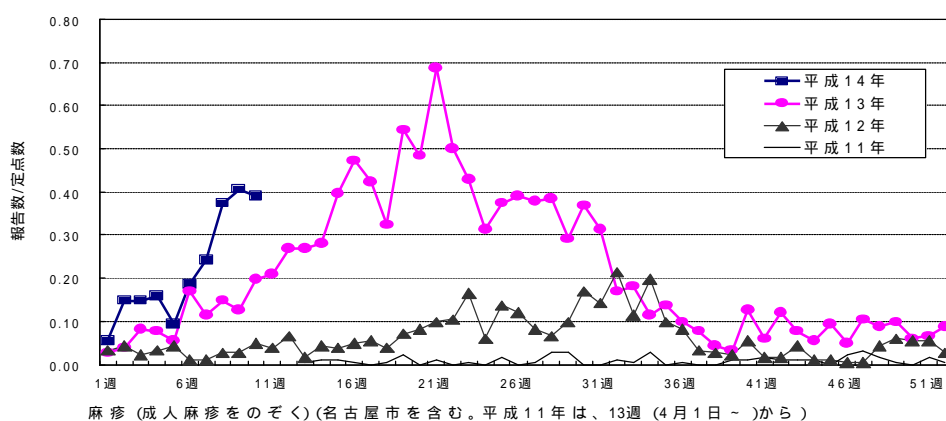
愛知県感染症情報

平成 14 年第 10 週 (3 月第 1 週)

(コメント)

インフルエンザのピークは過ぎ減少を続けています。麻疹は依然流行中ですので注意してください。特に、稲沢からの報告が多いです。流行性耳下腺炎は、岡崎からの報告が多いです。

麻疹の予防方法等については、愛知県衛生研究所のホームページ (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>) をご覧ください。



(定点の先生方からのコメント)

- 尾張西部地区
 - ・ インフルエンザ、感染性胃腸炎は減少。インフルエンザ 4 名 A 型 2 名 B 型 1 名 A、B 型 1 名。
(一宮市 後藤小児科)
 - ・ O1 (11 歳男、12 歳男、13 歳女、38 歳女)、O18 (6 歳女、30 歳男)、O159 9 歳男、O86a 9 歳女
(尾西市 城後小児科)
 - ・ 感染性胃腸炎の 7 歳女、5 歳男はカンピロバクター陽性の姉弟でした。インフルエンザはまだ多いです。
(江南市 河野小児科)
 - ・ 胃腸炎と夜間のみ熱のである咳を主体とした上気道感染がみられます。溶連菌も増えてきました。
(犬山市 武内医院)
 - ・ インフルエンザ減少しています。今週は A 10 人、B 26 人 週後半はほとんどなし。かわりに胃腸炎多く、溶連菌、伝染性紅斑

がふえてきました。ムンプス、水痘続発中。

(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

- ・ 感染性胃腸炎の流行が続いています。インフルエンザは減少しています。溶連菌感染症が少し増加してきています。

(江南市 みやぐちこどもクリニック)

- ・ 6ヶ月女、7ヶ月男、1歳4ヵ月男、1歳11ヶ月女、ロタウイルス(+)でした。

(春日町 丹羽医院)

- ・ インフルエンザ11例全てA型。

(新川町 三輪医院)

● 尾張東部地区

- ・ インフルエンザは少なくなりましたが、ロタウイルスを含むウイルス性胃腸炎が急増しました。カンピロバクター腸炎1名(2歳女)。マイコプラズマ肺炎2名(7歳男、8歳男)

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

- ・ インフルエンザはピークを過ぎたようですが、まだ多くみられます。(家族内感染で生後1ヶ月の乳児のA型インフルエンザあり。比較的軽症で発熱2日程度、全身状態は良好で合併症もなく改善しました。)マイコプラズマ感染症が全年齢層にわたってみられます。(成人での入院例もあり。)その他溶連菌感染、水痘症流行。手足口病も1例あり。

(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)

- ・ インフルエンザ減少。ロタ胃腸炎多数みられます。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

- ・ インフルエンザの罹患が減少してきました。1歳男の伝染性紅斑がありました。

(春日井市 かちがわ北病院)

- ・ インフルエンザは減少傾向です。

(小牧市 志水こどもクリニック)

- ・ インフルエンザ多し。ロタ胃腸炎入院あり。

(小牧市 小牧市民病院)

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 O1 9歳男、O6 1歳男

(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

- ・ 伝染性紅斑、水痘が流行。おたふくも流行。インフルエンザもまだあり。

(豊田市 医療法人やふそ小児科)

- ・ インフルエンザ患者内訳（1歳男、2歳男、6歳男の3人すべてがA型）
（豊田市 岩瀬小児科）
 - ・ ロタウイルス 2歳女、8ヶ月女。異型肺炎 5歳男、10歳女
（岡崎市 医療法人深田小児科）
 - ・ 4歳マイコプラズマ 10,240<。ロタウイルス2歳
インフルエンザA 12例、B 7例とAが優位ですが減少しています。
（岡崎市 花田こどもクリニック）
 - ・ B型インフルエンザ9人、AとB 1人。病原性大腸菌 O1 V T
（-） 7歳男、9ヶ月女。マイコプラズマ 3歳
（岡崎市 にいのみ小児科）
 - ・ 病原性大腸菌 O1 V T（-） 4歳
（幸田町 とみた小児科）
 - ・ インフルエンザ 19名中、A 7名、B 11名、A Bとも陽性1名で
した。当院としては、今シーズンではじめて60歳以上の患者がで
ました。（77歳男A型、71歳女B型）
（岡崎市 粟屋医院）
 - ・ インフルエンザA型インフルA・Bクイック* A（+）11名（3名
兄妹、2名親子）。インフルエンザB型インフルA・Bクイック
B（+）6名（1名ワクチン2回接種）。まだ一部の小中学校で
流行がみられ、明らかな減少傾向はみられないようです。
（岡崎市 医療法人永坂内科医院）
インフルA・Bクイック*：A型及びB型インフルエンザウイルスを検出する
迅速診断キットの一種。
 - ・ キャピリア FluA、B*にて診断 A 5名（内3名父、母、息子同時
発症）、B 2名。
（岡崎市 村山医院）
キャピリア FluA・B*：A・B型インフルエンザウイルスを同時に検出する
迅速診断キットの一種。
 - ・ インフルエンザの流行は終わった様です。感染性胃腸炎が少しみ
られます。
（西尾市 やすい小児科）
 - ・ インフルエンザは急に減少しました。インフル A・B クイック A
（+）4名。
（三好町 三好町立三好病院）
- 東三河地区
 - ・ インフルエンザは、落ち着いてきました。A群溶血性レンサ球菌
咽頭炎の児が時々います。

(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

- ・ 乳幼児に下痢嘔吐が目立ちます。インフルエンザは学童に多いようです。(キャピリア B(+))
(豊橋市 あずまだこどもクリニック)

(1~3類感染症の発生状況)

報告はありません。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

急性ウイルス性肝炎 B型患者 1名。

アメーバ赤痢患者 1名。

第8週(14年2月18日~2月24日)の4類感染症の全国状況

インフルエンザは九州地方など、流行が早期に始まった一部の都道府県で定点当たり報告数が減少傾向にある一方、東北地方などへ流行が拡大し、結果として全国平均の定点当たり報告数は増加している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比較してやや多くなっている。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は富山県で定点当たり報告数4.6、山形県・福井県で4.1と多くなっている。感染性胃腸炎は大分県(定点当たり報告数25.8)、福岡県(20.5)などで報告が多くなっている。伝染性紅斑と流行性耳下腺炎も、例年の同時期より定点当たり報告数がやや多くなっており、流行性耳下腺炎は、とくに沖縄県(定点当たり7.3)、山形県(5.6)、富山県(4.7)、石川県(4.6)などで報告が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

